

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152

メール info@takaoka-hongwanji.jp

★仏教婦人会連盟実践運動研修会Ⅱ開催

去る十月五日（金）、西本願寺高岡会館において仏教婦人会連盟実践運動研修会Ⅱが開催され、各単位会より九〇名余りの会員が参加した。

今回は宗教離れが叫ばれる現代の日本社会における仏教婦人会活動の意義を見つめ直そうと設定されたもの。テーマを「浄土真宗と社会く仏教婦人会活動の意義を考える」とし、講師の公文名眞さん（ヤスクニ問題専門委員・僧侶宗会議員・射水組光照寺住職）の講義を受け学びを深めた。

公文名さんは、「宗教離れは伝統的仏教教団だけの問題ではなく、新宗教やキリスト教、神道についても深刻なレベルである」とし、「特に新宗教と呼ばれる比較的歴史の浅い宗教団体では、極端な例では公称する信者数さえも十数年で半減している団体を例に挙げられ、それらの宗教団体では信者を得てもその家族や子どもが信者にはならず、一代限りになっていることが信者数の急減の要因である」と指摘された。

その上で「現代の価値観はより強く・より早く・より大きくを求め、強者が称賛され、弱者は排除されていくという『煽る文化』とし、「対して仏教は欲望の充足を求めず、今も昔も変わらない老病死の現実を見つめていく『鎮める教え』であり、あらゆる時代に共通するこの世界の普遍的真理である」とした。

公文名さんは「欲を加速させていくのではなく、自らがいのちを終えていくとき周囲の皆に『ありがと

う』と手を合わせることでできる生き方。仏婦もそのようなことを念頭に活動してはどうか」と提案され、その上で「個人でも活動はできますが、一人の力では限界があり、力を合わせて共に歩んでこそ乗り越えられることもある。相互扶助や雑務の省力化が集団の強みであり、だからこそお釈迦様の時代から仏教徒は集団化していました」と仏教婦人会として活動することの強みについて述べられた。

また、「以前は生活文化の中に真宗が息づいていました。どこの家にも仏間や僧侶の控え間があり、そういった文化の中で育ったから教えが伝わっていた。新宗教はそのような文化的背景がないから一代限りで終わっていくのだと思います」と述べられ、「しかし、そのような真宗文化も破壊され失われていき、すでに戻らないものもありますが、仏婦の活動として目新しい活動ではなく、決まった日に皆でお参りするとか、今までの真宗文化を自覚的に取り組んでいくことも大事ではないでしょうか」と締めくくられ、「今まで活動を当たり前のよう感じていたからこそ、その重要性を見落としていたのでは」と指摘された。

◆仏教婦人会連盟

東日本大震災支援活動報告

今年も新米の収穫時期を迎え、教区仏教婦人会

連盟が富山県産コシヒカリを宮城県名取市の愛島東部仮設住宅にお届けした。

この支援活動は、津波により壊滅的な被害を受けた名取市閑上地区にお住まいだった方が避難生活を送る愛島東部仮設住宅、箱塚桜仮設住宅を対象に教区仏婦独自の活動として行われているもので今年で六回目。

今年度で箱塚桜仮設が愛島東部仮設と統合となったため、今回は愛島東部団地仮設住宅にのみ送付となった。

自治会長の菅原忠男さんは「今年もおいしいお米をお届けいただきありがとうございます。入居者の皆さんも富山のお米を楽しんでおり大変喜んでおりました」と謝辞を述べられた。

愛島東部団地仮設住宅は、現在も二十三世帯がお住まいであるが、現時点で全ての入居者の方の転居先が決定しており、二〇一九年三月末には全ての方の引越しが完了する見込み。

★「北海道胆振東部地震」災害義援金募金について

現在、各ご寺院にご依頼しております「北海道胆振東部地震」災害義援金につきましては、七十五ヶ寺さまより、六十七万七千六百十円（振込手数料を除く）の義援金を頂戴しております。ありがとうございます。引き続き、よろしくお申し込み申し上げます。

『ほとけのこども
のつどい』
開催のご案内

本年度の「ほとけのこども
のつどい」を次の通り計画
しています。どなたでも
ご参加いただけます。詳細
は12月の教区報で。

期日：12月22日（土）
午前10時～午後3時頃
（昼食はカレーライス）
会場：西本願寺高岡会館
内容：ゲームほか
（なぞときチャリヅ）
（予定）

高岡会館報恩講お初夜「親鸞聖人を語る夕べ」

期 日 11月26日（月）午後7時～9時

※午後6時より「うどん」のお齋があります

内 容 第1部 音楽法要（宗祖讃仰作法）午後7時～

第2部 ご講演 午後7時45分～

テーマ 今、浄土を願う

—曇鸞・道綽・禅導三師ゆかりの玄中寺を訪ねて—

ご講師 津山玄亮氏（高岡教区教学研究室研究員・糸岡組願称寺住職）

（詳しくは同封のチラシをご覧ください。）

西本願寺高岡会館 報恩講法要のご案内

○下記の通り高岡会館の報恩講を勤めます。お誘いあわせてお参りください。

日 時：11月27日（火） 日中—午前10時・逮夜—午後1時半

布 教：立川 証 師（川上組浄教寺住職）

講 題：『果に従い因に向かう』

※お昼にお齋（お弁当）を準備しております。午前・午後あわせてお参りください。

御同朋の社会をめざす運動のコーナー

信頼の得られない「信心」になっていないか？

カーラジオで国会中継を聞いていたら、「消費増税の根拠と前提は？」との質問に、「税の公平・公正性を保つことと、政治への信頼を取り戻すこと」と答弁しているのを聞いて、「あなたがそれを言う？」と結構な勢いで独り言を叫んでいる自分に気が付き、思わず苦笑してしまいました。「対象を高く評価し、任せられるという気持ちをいなく」ことが「信頼」です。世論調査で「信用できない」が七割を超える現状では、とてもじゃないが出来なはずなのですが、結局「選挙で信任を得た、とか言っただけで強行しちゃうんだろなあ」と、また溜め息でした。

ところが、信頼性は政治家だけの問題ではないようです。十一月一日の毎日新聞に「僧侶に悪印象」との見出しで記事が掲載されました。中身は宗派教学研究所が公表した、二千人以上の葬儀業者や消費者からのアンケートに関するもので、「仏教への悪印象の原因では『僧侶』が二十五%」「僧侶への悪印象の原因では、『人に対する態度』が最多の二十三%で、次いで『金銭感覚』（十九%）」といった内容でした。私の個人的な印象からすると結構、控え目な数字に思いましたが、みなさんはどうお感じになるのでしょうか？

一方、この記事は「僧侶の人間としての資質を上げる必要がある」という教学研究所属員のコメントで締められていたのですが、これには大きな違和感を覚えました。先頃、『宗報』に「僧侶養成体系プロジェクト委員会」が総局に提出した「『具体策』の推進に関する第一次答申」なるものが掲載されました。詳しく

は『宗報』十月号をお読み頂くとして、私の印象としては、どうやら、得度・教師・布教使らの育成課程を通じて「個々人の人としての資質を上げよう」との、お考えのようです。それを讀んで、僧侶を目指す人たちが、僧侶になっていく私たちが、教団から「信頼」されていくように感じてしまうのは、私の「ひがみ」なのではないか？ また、「あなたの人としての資質を上げますよ」と呼び掛ける組織は、組織人から「信頼」を得られるのでしょうか？ 様々な疑問が浮かびますが、とりあえず思うのは封建的な手法の導入こそ、もつとも「同朋教団」に相応しくないことであり、そのような提案には反対せざるを得ないということ。 「答申」については今後も注視していく必要があると思われる。

今回のアンケート結果とは違う意味で、私たちの教団や僧侶は、その歴史のなかで何度も「信頼」を失ってきました。それは、例えば「部落差別やハンセン病、性差別を温存・助長する教え」を説いてきたこと、あるいは、時の権力におもね「戦争を肯定・推進する教え」を広めるなかで、門信徒や社会からの「信頼」を失った、という事実です。かつての基幹運動、そして今に続く「御同朋の社会をめざす運動」も、「失った信頼をいかに回復していくか」という取り組みに他なりません。それは言い換えれば、私たちや教団自身の「人間としての資質を回復する」ために「教えのいただきぶり（信心）」の中身を確認する作業が必要であった、ということでありましょう。一過性ではない、実直でたゆみのない取り組みこそが真に「信頼」を得られる唯一の方法と思われまます。

【高岡教区教区主幹 浜野信宏】

◇これからの日程（11/19～12/19）◇

11月	教区・財団行事	教化団体・組行事
19		子ども若者ご縁づくり中央 研修会（京都）
20		ハンセン病運営委員会 連区仏壮連絡協議会 福光教堂報恩講（～21）
21		音楽法要修礼
26	親鸞聖人を語る夕べ	
27	会館報恩講	
28		「北陸藤の会」
29	聖典セミナー（第8回）	
30	常備会	
12月		
3		仏婦常任委員会 第2回つどい合同企画会議
4		寺女研修会
7		仏壮理事会（忘年会）
10		寺青研修会
12		講社もち米進納（京都）～13
14	常例法座	
18	聖典セミナー（第9回）	
19	組長会（忘年会）	

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・738kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25
□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎11/17（土）：片江 哲海氏

（本願寺派布教使・佐賀県西福寺前住職）

「お立ち姿の阿弥陀様」

◎11/24（土）：片江 哲海氏

（本願寺派布教使・佐賀県西福寺前住職）

「光の仏、いのちの仏」

□11/25（日）：未 定

（富山教区）

◎12/1（土）：片江 哲海氏

（本願寺派布教使・佐賀県西福寺前住職）

「お聴聞の姿」

◎12/8（土）：片江 哲海氏

（本願寺派布教使・佐賀県西福寺前住職）

「報恩講の思い出」

□12/9（日）：瀧山 志穂氏

（高岡教区氷見西組願正寺）

◎12/15（土）：加藤 龍行氏

（本願寺派布教使・大阪府明光寺住職）

「未 定」

☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（170袋） 8,300円

・1組（10袋） 500円

お申込み先は…高岡市東上関446 高岡教務所内
（寺族青年会担当）

Tel.(050)5587-7708(代表)

メール hourin18@gmail.com

平成30年度

教区賦課金(後期分)納入について

5月当初にお知らせ致しました告知書の通り今年度の教区賦課金（後期分）の納入期限は12月25日（火）迄となっています。できるだけ早期の納入をお願い致します。

【西本願寺高岡会館12月の常例法座】

ご講師：福田 慶隆氏

（五位組廣濟寺）

ご講題：『仏と蓮と浄土真宗』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。